

ミニチュラン評価のポイントは 時間の「価値」いかに表現するか。

思い熱き「再生請負人」①

古都・奈良を拠点に、不良債権物件の再生に取り組み会社や観光業、運送業など5つの会社を束ねる「ノブレスグループ」代表の川井徳子さん。企業などを単に再生させるだけでなく、以前よりもさらに輝かせることを心掛け、蘇らせたホテルがミニチュランに評価されたことも。自身も闘病で生死の境をさまよった経験があり、事業には「再生」への熱い思いがこめられている。

(聞き手 中島高幸)

——現在、最も力を入れている仕事は何ですか
川井 不動産を再生して、その場所にもさわしいものに変えていく。評価していただいているのは観光分野のホテル事業です。ミニチュランガイドで、快適さを示す「パビリオンマーク」を、

ノブレスグループ代表 川井徳子さん

2年連続でいただいた。この事業に14年取り組んできて、手心えを感じています。
——奈良市のホテルアジール・奈良のことですね。
川井 競売です。平成12

年に入札で落として手に入れました。そのころは経済変動が厳しい時期で、たくさんのお客様がつぶれました。裁判所の入札で山のよういろいろな物件が並んでいて、逸品のダイヤが売りに出ていたような気がしました。
——どういったふうに関わったのですか

川井 たとえていうと、砂場で土を固めてつぶしては、もういっぺんこうやって、と粘土をこねるかのようになっている。改装自体は自分の思い通りにいきま

したが、ホテルマネジメンの方は、まるっきりの素人だったんです。レストランもいい料理長に弟子を育てていただいたり、一流のサービスマネジャーに出会ったりするまで、すごく時間がかかりました。
——最初のオープンは何年ですか。今ある暖炉やいろいろとかはなかったもので、大改装をしま

した。外観も利休風という緑とグレーの中間色だったが、2回目の改装で、日本の白と黒のお城を基調にしたようなデザインに変えました。
——「アジール」とは、どんな意味ですか
川井 ギリシヤ語で神殿、ドイツ語で避難場所という意味があります。隠れ家、隠された場所という意味

も。都会で働きすぎて疲れた人に、ほっと休んでほしいという思いからつけました。
——「パビリオンマーク」を2年連続で手に入れたことはどう思いますか
川井 とても光栄です。1回目の発表のときは、もうだめだと思って東京出張に行っていました。その日、会場にいたある方から電話で「川井さんどこにいるの。(ガイドに)載ってるやん」と。
——どのあたりが評価されたと思いますか
川井 業界の方には「あの古いホテルでよくこれだ」といわれる。しかし、古さがコンセプトにある。時間をいかに表現するか。ワイン文化のあるフランスは、「2002年のワインはおいしかった」というふうに時間の「価値」を言う。そこが分かるかどうかが大変。時間をどのように表現するかが重要なんです。



(松永渉平撮影)

かわい・のりこ 昭和33年、奈良市生まれ。立命館大学(西洋史専攻)を卒業。観光業、不動産業、運送業、IT・デザイン業など5つの会社を束ねるノブレスグループの代表。観光と不動産再生事業に軸足を置き、地域の活性化に取り組んでいる。著書に『不動産は「物語力」で再生する』(東洋経済新報社発行)がある。

このことは、奈良にとっても最大の武器だと思っんです。法隆寺は、建物そのものが1300年以上前からそこにあった。今もその当時の暮らしを僧侶が守っているんです。



ゆとり
YUTORI